

「八木健の俳句を解剖する 1」

2008.12.1 (聞き手 高橋素子)

高橋 昨今、「滑稽俳句を作りたいけど、難しいのでどうも・・・」とのご意見があちこちで聞かれる様になって参りました。そこでこれから数回にわたりまして、八木健会長にご自身の滑稽俳句に自らメスを揮って頂いて、滑稽のわざをいろいろ皆様にご披露頂きたいと思います。

これから解決をお願いする作品は・・・どれから始めましょうか？ あっ！これがいいですね。

★ 怠けぐせ治らず春の海のたり

この句は、会長の「第七句集のタイトル」になった句です。春の海が、一日中怠けてのたりのたりとしている様に見える事の一瞬を切り取って詠まれた句ですね。しかもご謙遜されてご自身の性格と同じだと・・・

会長 私の性格？とんでもない！これでも結構私は勤勉なんですよ(笑い)

この句はね、蕪村の「春の海終日(ひねもす)のたりのたりかな」を下敷きにした作品なんです。

まあパクリに近いですが詩の世界ではパクリと言わずに「本歌取り」なんていいますね。

「のたり」は「ゆったり」という意味ですが、広辞苑では「のたり」の項に、蕪村の句を引用して「悠々とした様子」としています。蕪村は春の海を写生したわけですから、完全な擬人化

ではありません。擬人化ですね。私は春の海の擬人化を徹底したんです。あれは「怠けぐせ」だと。蕪村があのかを詠んでから250年ぐらい経過しているのに相変わらず「のたり」の、「怠けぐせ」が治らない。つまり自然の悠久を賛美しているわけです。

「せかせか動く日本人たち」と後に続けてごらん下さい。短歌になりますよ。

高橋 では次は・・・どれにしましょうか？

★ アイロンをかけハンカチの過去を消す

ハンカチの皺は、確かにハンカチが出会ったハンカチだけが知っている過去を物語っていて、それをアイロンが消していく・・・

ハンカチ・夏の季語ですが、面白い感性ですね。言われて見ればその通りですが、なかなかこういう表現は思い付きにくくて・・・

ご自身にも消したい過去をお持ちだとか・・・
(笑)

会長 消したい過去のない人は「マレ」でしょう。そういう人は詩人にはなれませんんちゃって。(笑)

確かにハンカチには「汗」「涙」など、さまざまな過去が沁み込んでいますよね。警察の鑑識課に持ち込めばさまざまなことが判明するだろうしさ。

しかし、この句ではアイロンの温度を最高にして熱処理をしているんです。熱処理の対象は「皺」ではなくて・・・「記憶」なんですね。消したい記憶はあの人のこと・・・。なんてあくまでこれはフィクション。でも、面白い感性だと言われると嬉しいね。

誰もがちょっとだけは思うことには違いないことなんだけど。その感じたままをどう滑稽句に表現していくかという事でしょうか。

高橋 では次は、
前の句と同じ様に句集「平成の滑稽」より

★ 秋刀魚の解剖お箸のメス揮ひ

これも感じたままを句に描かれたと言うことで
すが、お箸をメスに見立てて、秋刀魚の身を崩
して食べる様子を解剖と表現されたのですね。

ただ秋刀魚を食べてるだけなのに、まるで理科
の実験の様な不思議な気分になさしてくれます
ね。（笑）

会長 ちがうちがう・・・理科の実験なんてなまやさし
いものじゃなくてさ。遺体の解剖ですよ。

しかしねえ。秋刀魚食うのを解剖なんて品がな
いでしょ。そこがつけ目なんです。滑稽な俳句
づくりには「俳句らしい言葉」を使わないこと
が肝心なんですね。「解剖」なんて、従来
の俳句では使いませんよ。しかし、あれはたしかに
「解剖」なんです。写生をするのにもっとも適
当な言葉をさがす。すると必ず見つかる。見つ
かったのが「解剖」。すると「箸」ではなく、
「メス」という言葉が自然に出てくるんです。

このように、俳句における滑稽は、先入観を払
拭して対象と向かい合うことで生まれてくると
思いますよ。

高橋 ★ 飯食って行方不明の帰省の子

この句に初めて出会ったときには、思わず笑ってしまいました。
ご馳走を作っているいろいろ子のお話を聞きたいと待ちかねていた親にとっては、拍子抜けの様な話しですね。でも子にはちょっと迷惑な話。
それぞれの立場からいろいろ想像出来て面白い句ですね！

会長 この句は自身の反省から浮かんだことなんです。子を持って知る親の恩といいますが、親の哀しみがわかる年頃になって作った作品です。

風景としては滑稽です。楽しく食事をして終わったところで、「どうかね、東京の暮らしに少しは馴れたかい」と尋ねたときに、すでに息子は風のように現場から姿を消していた。
父親としては呆気にとられて、「あいつは飯のときだけ戻ってくるが・・・。」

母親が「お父さんも昔はあんなでしたでしょうに」という会話になる。可笑しいが哀しい。これが滑稽句です。

こういうことは句になりにくいのです。花鳥諷詠では描きにくい世界です。滑稽句は生活の寸景を季節感とともに活写できるのですね。

高橋 では、次は少しエロシズムな句をと思ったら・・・

★ 濡れ場なりプールの更衣室もまた

プールからあがった水で更衣室と言う場所がぬれているという見事に裏切られた構成でしたね。
うーん！上手いですね。 脱帽です。（笑）

会長 「裏切り」・・・その通りです。

滑稽の秀句はかならず「裏切り」の構成です。
俳句は「切れ」がありますね。
句末に切れのある作品では「裏切り」は不可能
ですが句の途中で切れをつくって予想外の展開
にしてしまう。この句の場合は「濡れている」
更衣室を見て「濡れ場」と決め付けたわけですね。

「濡れ場」は歌舞伎で「濡れごと」つまり男女
の情事を演じる場面をいいますが、そういう本
来の意味を裏切る可笑しさがこの句にはあるの
です。

ところが考えようによっては「水に濡れ」では
なく男女がここでなんとなく仲良くなってし
まったということも想定できるところに面白さ
もあるのです。この句をつくる下地としては歌
舞伎の濡れ場という用語をたまたま知っていた
ということです。

高橋 ★なつかしのお味噌が届き年の暮れ

これ初めて見たときは、年の暮れに田舎のご実
家からお味噌が送られ来て、故郷を幸せ気分で
懐かしんでいらっしゃる句だと・・・
まさか、おーみそか？「大晦日」なんて言葉遊
びが隠されているとは？
これも拍手喝采です。（笑）

会長 おわかりでしたね。ふふふ大晦日・・・
この句は講演会でご披露するとかならず「受
け」ますね。

私はこういう駄洒落の句が50ぐらいありまし
て講演会でならべたてます。聴衆の気分をほぐ
すのに使ってます。

「ハンカチの持ち主を問ふ枯野かな」・・・彼
の・・・

「エジプトの首都で使ひし暖房具」・・・懐
炉・・・

なんてね・・最近は聴衆が大きな声で答えてくれます。(笑い)

「なつかしのお味噌」の句は滑稽句としてでなくてもありそうなところが可笑しい。
駄洒落の句は、江戸時代にはたくさんつくられていましたね。蛤のふたみに別れゆく秋ぞ　これは芭蕉ですが　蓋と身・このあと芭蕉は二見が浦へ行ったのですが、私は滑稽の原点は駄洒落だと思っていますよ。

高橋 ★ 村いちばんの美人も彼岸墓の中

ウン！生きとし生ける物の定めでしょう
か？美人もこの定めには勝てませんね。

「どこかに哀しみがあるのが滑稽詩です」とは
会長のお言葉ですが・・・相手にもしてもらえ
なかった憧れの美人のお姉さんもやがて死んで
しまったという小さな日の哀しい哀しい会長の
失恋物語です・・・ね？

会長 失恋ですか・・失恋したいなあ・・失恋や秋刀
魚の腸に似てゐたる・・哀しいんじゃないくて
ほろ苦いんだね。

冗談はさておいて・・この句は生きとし生ける
物の定めといわれたが、そう無常観ですね、祇
園精舎の鐘の声、ひとの世の常を詠ったのです
ね。

かたちあるものは必ず滅ぶ。すなわち、色即是
空。この句は無常観という観念を句にしてみた
のです。

俳句のつくり方はいろいろあると思うけ

ど・・・。

観念を出発点にして具体的に見えるかたちにする。そういうつくり方なんです。村いちばんの美人はおそらく肩で風切って歩いていたでしょうに、いつかは 墓の中に入ってしまうという真実です。でもそんな人を本当に初恋の人にしてみたいねえ。 ちょっと遅すぎたか・・・
(笑い)

高橋 ちょっと？冗談はそのくらいにして頂いて・・・
では次の句に

★どしゃぶりとなりたる蟬の時雨かな

誇張された句とおしゃっていますが、確かに実際、蟬の合唱はもう煩いほどですね。合唱と言うか、それぞれが個を主張して中には不協和音の如く物凄い鳴き声までも！この句に出会ってなるほど、こんな表現の仕方があるのだと・・・とても良い勉強になりました。

会長 蟬の合唱を蟬時雨というおおまかな括りにしてしまうと、それは最大公約数なんですね。

時雨どころじゃない 「大合唱」・・・それは「どしゃ降り」であるはずだから。

「蟬のどしゃ降り」なんてないよと、言われれば、そうでしたね。というほかないんですが。でも貴女のように「どしゃ降り」の表現に納得してくださる方も多いと思いますよ。

高橋 次は・・・「いつまでも童心を持ち続けたい」とおしゃる会長の句の中でも私の一番好きな句なのですが・・・

★ お引越スミレは移植鰻に載り

童心で感じたままを詠まれた句とお見受け致しますが、良寛様とも一茶とも違った会長ご自身の独特の童心・・・パチパチパチ・・・素敵な句ですね！

会長 童心をほめられ悪巧みできず・・・いえそんなことしません。（笑い）
良寛や一茶の童心との比較ですか？嬉しいですね！
でも私の場合じっと対象を見つめていて、その物と一体になって生まれた句なんですね。こう
いうと何か擬人化に似て来ますが・・・でも
「童心で感じたままを」と書いたほうがわかり
やすいでしょうね！

高橋 あらもうこんな時間！今回はこの十句めで終わりとさせていただきますね。
では、おしまいこの擬人化の句
を・・・

★ 終生を夜勤に励み油虫

会長のトレードマークの様な句ですよ！会長がゴキブリだなんてそんな失礼な事を申し上げているのではありませんよ！・・・（笑い）

睡眠時間、四時間程で、夜も生き生きとお仕事に励んでいらっしゃる会長のお姿がどうも私にはこの句に重なって・・・

お体くれぐれもご自愛下さいネ。

会長 私は、39年間宿泊勤務のある職場にいましたので「夜勤」にはことのほか「共感」できるのですね。

真夜中にチョロチョロ出てくる油虫にはことのほか親近感があるのはご指摘の通りです。しかし、夜勤が辛い・・・ということではありませんよ。芭蕉の「軽み」の代表句「初しぐれ猿も小蓑をほしげなり」の「しぐれ」は俳人にとって「心地よい・・・嬉しいもの」なのです。だから猿もほしいだろう・・・ということなのです。

世の中の俳人は「しぐれ」を陰鬱な辛いものとしてこの句を解釈することが多いのですが違うんですね。それと同じように、夜勤は私にとっては楽しいもので油虫も楽しく励んでいるな・・・という意味の句です。

俳句は自身の心の記録ですから・・・夜、気ままに好きな事をやって、健康までもお気遣い頂いて本当に有難いですね。

(2008年 12月号)